NIE特集
Newspaper In Education
毎月第２・４火曜日発行

しらかし台小

学校名　宮城県利府町立しらかし台小学校　校　長　京極　和夫
所在地　宮城県利府町しらかし台１の９　児　童　264人
電　話　022（356）7131

点検 乗客安全第一に

新幹線車両センターってどんなとこ？

知り隊

細部まで丁寧に確認

新幹線車両センターで、玉沢さんに取材する

私たちしらかし台小のある宮城県利府町には、「新幹線総合車両センター」があります。毎年7月に「車両基地祭り」があり、新幹線についてのいろいろなイベントも行われます。この前も新型の新幹線が車両センターに運ばれてきたというニュースを聞きました。でも、そもそもなぜ利府町に車両センターがあるのだろう？ 中でどんな仕事をしているの？ 疑問が次々とわいてきました。

利府町の南西部、広い田んぼの中に新幹線車両センターがあります。横長の大きな建物で、総務課の玉沢卓さんに案内していただきました。

車両センターは南北に3・5㌔、東西に260㍍あり、大きさは「東京ドーム11個分、あるんだよ」と玉沢さんが説明してくれました。働いている人は１２００人もいるそうです。利府町に車両センターがあるのは、「東京と青森を走る東北新幹線の中間地として、立地条件などがそろっていたため」と言います。

中を見学すると、家族旅行などで乗ったことのある「はやて」がありました。乗る時と違って、とても大きく見えました。走り終わって車庫に入ってきている車両があれば、その横に、汚れを落としてきれいになったものもありました。台車を外して、一つ一つ丁寧に点検。車輪を見たときは、思っていたよりも大きかったです。こわれた座席をはりかえたり、車体を組み立てたり。本当に新幹線のなにもかもをしている所なんだな、と思いました。

車両センターの中には、いろいろなところにごみを集める箱があり、しっかりと分別されていました。それも百パーセント、リサイクルされているそうです。

今度入った新型車両について聞くと、「今までの新幹線より速い時速320㌔も出る。トンネルに入るときの衝撃や騒音が大きくなるので、先頭車両の先が抵抗をなくすために、とても長くなっている」ということでした。

◇ ◇

新幹線の仕事をしている人たちにとって一番注意していることは何かを聞くと、玉沢さんは「乗客を安全に運ぶこと」と話してくれました。ここで働いているみなさんのおかげで、私たちも楽しい旅行ができるのだなと感心しました。

文・小野寺真里、鎌田優花、北川莉奈、斉藤静、玉井茉咲、日野絵美架、広沢さき（6年）

言い隊

■ 地産地消の給食 感謝 ■

給食センターの人たちは、毎週月曜日から金曜日まで私たちのために給食を作ってくれています。毎日の給食は、栄養のバランスを考え、私たちの成長に必要なものが取れるようにしてくれています。

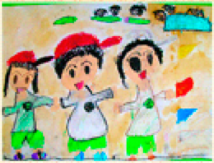
利府町の給食で特徴的なのは、地産地消といって地域で取れたものを使うことが多いことです。春はタケノコを使った料理や旬の野菜、利府の名産・ナシのジャムなども出ます。季節の行事に合わせたメニューを考えたり、外国の料理も出してくれたりと、いろいろ工夫をして作ってくれます。だからできるだけ残さず食べています。私は利府町で給食を食べられることをうれしく思います。そして、給食センターの人たちに感謝したいと思います。（6年・高橋まりな）

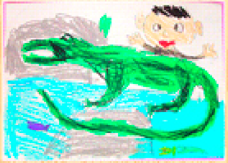
■ ごみの分別広めたい ■

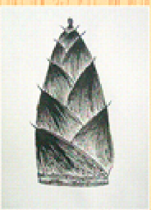
この間、町のブラザーシップ（子どもたちの交流組織）の会議に出席しました。エコ活動について話し合ったとき、他の小学校では、「エコキャップ運動」をやっていると聞きました。私たちの学校では、年に数回ごみ拾いをするだけでした。

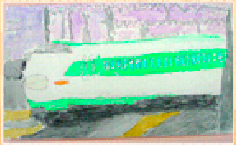
エコキャップ運動とは、ペットボトルのキャップを集めてポリオワクチン代にするという活動です。８００個で１人分のワクチンになり、ワクチンが接種できない国の子どもたちの命が助かるのだそうです。今、私たちの学校でもエコキャップ運動に取り組もうと提案しているところです。身近なごみの分別をして環境を良くし、ワクチンを接種できない子どもたちの命を救う活動を広げられることを願っています。（6年・越坂紫織）

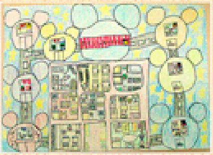
うきうきキャンバス

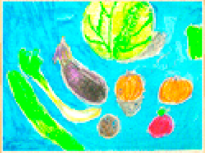

かけっこがんばったよ
1年・高橋果実


メガネカイマン
2年・石幡大空


たけのこ　3年・柴田愛美


速いぞ新幹線
4年・直井蘭太郎


マウスマンション
5年・佐藤明日香


ＯＨ　野菜
6年・尾形朋彦

教え隊　しらっ子まつり

地域と一体で出し物

昨年開かれた「しらっ子まつり」

しらかし台小では、毎年11月の第２土曜日に「しらっ子まつり」という楽しい行事を行っています。３年生以上の学年がお店を出して遊びます。

地域のみなさんも参加します。福寿会では、風車や竹で作った紙鉄砲など、昔のおもちゃを作ってくれます。ボランティアのキャベツクラブのおばさんたちは、豆つかみをして、はしの使い方を教えてくれます。おやじの会も参加し、リヤカーや一輪車に乗せてくれます。全校合唱もあり、地域と学校が一体となった活動をしています。ぜひ遊びに来てください。

文・松浦雅樹、荒井隆志、清水一騎、門間俊史、早出優吾、鈴木弘一（6年）

編集後記

「どきどき小学生」の紙面を作ることとなったとき、私たちはクラスみんなで取り組むことにしました。環境のこと、エコ活動のこと、大人の行動、ごみ問題などいろいろな意見があり、みんなそれぞれに考えていることが分かってとても良かったです。

その中から選ぶのは大変でしたが、文章をみんなに伝わるようにと編集しました。クラスのみんなで取り組めたことは、良い体験になりました。利府町の高校生、中学生、小学生で組織するブラザーシップなどもあり、利府町の良さも再発見できました。

＜編集委員＞相沢幸輝、安斉翔、浮須桃実、薄智彦、川口真樹史、五林彩花、斉藤史佳、佐伯夏美、笹木俊希、下山詩織、菅原雷人、鈴木翔太、丹野愛莉、千葉洋歩、東海林かな、林実美希、深坂泰大、森山弦馬、門間麻依、吉川あゆみ（6年）＝既掲載者は除く＝

題字デザイン　阿部さくら、佐藤麻伊、横山栄理（6年）

＜指導教諭＞横山　直紀

次回（10月14日）は、立町小（仙台市）と、館矢間小（宮城県丸森町）です。

新聞作りに参加する小学校を募集しています。申し込みや問い合わせは河北ＮＩＥ推進事務局022（211）1331へ。